

## 2001年度第4回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2001年(平成13年)9月26日(水) 16:00～16:50

場所：L-911

出席者：計 92名

欠席者：計 22名

配布資料：

(1)2001年度第3回 長期計画企画拡大会議 議事記録

会議資料(プロジェクタ投影)：

(1)専門部会各検討専門委員会における検討課題

(2)いくつかの重要課題について

### 議 事

#### 1. 専門部会各検討委員会における検討課題について

前回(2001年度第3回)に引き続き、各検討専門委員会の委員長から、それぞれの検討課題について説明があった。

各検討専門委員会の検討課題の報告は下記のとおりである。

(1)上智短期大学検討専門委員会 (委員長：短期大学長)

検討課題

1. 転換期を迎えた日本の短期大学
  - 1-1 短期大学制度の歴史と社会の変化
  - 1-2 少子化による18歳人口の減少
  - 1-3 強まる女子の4年制大学志向
  - 1-4 厳しさを増す短期大学運営
  - 1-5 現在行われている具体的な対応策
2. 試練を迎えている上智短期大学
  - 2-1 歴史と現状
  - 2-2 秦野キャンパスの短期大学
  - 2-3 教育理念と教育方針
  - 2-4 女子教育とマリア会の協力
  - 2-5 28年間の成果、卒業生(7,252人)の活躍と社会的評価
3. 上智短期大学の将来構想
  - 3-1 A案 短大を質的に充実し存続させる
  - 3-2 B案 短大を縮小改組し、4年制新学部と併設する
  - 3-3 C案 4年制新学部を開設する
  - 3-4 その他の提案
    - 3-4-1 グランド・レイアウトに係る理事会あての提案
    - 3-4-2 本題検討による専門委員会の提案
4. 各提案の評価

5. 結論 – 本委員会の提言
  - 5-1 長期的展望による提言
  - 5-2 中期的展望による提言
  - 5-3 短期的展望による提言

(2)上智社会福祉専門学校検討専門委員会 (委員長: 社会福祉専門学校長)

検討課題

1. イエズス会教育の特徴の再確認
2. 夜間学校と生涯教育の意義
3. 専門学校と資格
4. 短大、学部・学科、大学院との連携の可能性

検討手順

1. 保育士科、社会福祉士・児童指導員科、介護福祉士科に関する諸統計やアンケートを踏まえ、変化する福祉ニーズと社専の現状を分析
2. 社会福祉変革期に対応した社会福祉主事科の2001年度よりの学生募集停止
3. 現存する3学科の強化と新学科の可能性の模索
4. 10月以降、諸資料を整え、近い将来と遠い将来の可能性について審議

(3)生涯教育検討専門委員会 (委員長: 公開学習センター長)

検討課題

1. コミュニティ・カレッジの理念 [優先順位 1]
  - 設置目的、特色、ターゲットの明確化
  - 目的を実現するための方向性
  - 独立採算制の可能性
  - 名称変更
2. 語学講座の改革 [優先順位 2]
  - 言語別問題点の洗い出し
  - 諸問題の検討、解決案の策定
  - 新しい語学講座の具体案
  - 学科、一般外国語教育センターとの連携の可能性
3. 教養・実務講座の展開 [優先順位 3]
  - 社会貢献と利益追求
  - 学部・大学院開校科目の開放促進
  - 単位付与の可能性
4. 研究コースの改編 [優先順位 3]
  - 現状の問題点の検討
  - 研究科・専攻の協力体制
  - 継続 / 廃止(教養・実務講座への一本化)
  - 将来の可能性
5. コミュニティ・カレッジ運営委員会・公開学習センターの機能・運営 [優先順位 3]
  - 委員会・センターが直接運営にあたっていないものの運営方法
  - 委員会の機能、構成員
  - センターの機能、所管業務
6. 将来の生涯教育 [優先順位 4]
  - プログラム内容の検討
  - 学部横断的教員組織、生涯教育専門の新教員組織構築の可能性
  - 情報ネットワークの利用の可能性

## 2. いくつかの重要課題について

理事長から、以下の話題に触れたのち、各検討専門委員会に対応したいくつかの重要事項について説明があった。

- 予算説明会(2001年9月14日開催)における、2002年度予算大綱について
- 文部科学省が推進する、『世界最高水準の大学づくりプログラム - 国公私「トップ30」 - 』、並びに、その選定の仕組みと10の学問分野について

また、大学を取り巻く事情や社会的要請などに鑑み、各委員会の審議、検討をこれまでも増してスピード・アップするよう要請があった。

なお、A地区建造物に係る基本構想の策定を、本年12月から着手する。A地区建造物は、21世紀に向けたシンボリック・タワー構想のもと、法・経済・外国語の既存3学部に加え、新たに検討される新学部、新大学院、並びに、新体制のもとでの事務組織などを配置する。

### - いくつかの重要事項 -

#### 1. アカデミック・プラン等検討専門第1委員会

- (a)教育、心理、福祉、および看護の分野を柱とする新学部構想
- (b)語学教育の改善・向上策

- 学習環境の改善(CALLシステム、セルフ・アクセス・システム)、個人のニーズに合った語学教育

#### 2. アカデミック・プラン等検討専門第2委員会

- (a)大学院の高度化・多様化と実務専門家養成大学院の設立構想

- 社会科学、自然科学、人文科学を総合した「環境大学院」構想
- アンコール・ワット研修所を活用した「人材養成型センター」構想
- 「法科大学院」設立構想

- (b)研究所・センターの整理・統合と研究体制の確立

- 上智大学総合研究所(仮称)構想

#### 3. フィジカル・プラン等検討専門第1委員会

- (a)総合メディア構想の具体化
- (b)効率的かつ機能的な事務組織の構築

#### 4. フィジカル・プラン等検討専門第2委員会

- (a)第1期:A地区の建設・基本構想

### (質疑応答)

Q. 「トップ30」に関わる申請の時期や選考方法について、何か情報はないか。

A. 申請については、2001年内に要項を作成し、2002年1月に募集開始、同年3月募集〆切というスケジュールになるとのことである。選考は大学全体で評価されることはなく、分野ごとに選考委員会が作られ、分野ごとに評価、決定がなされるのではないかと推測する。なお、私立大学全体でも、国立大学とまったくの同条件で審査されることのないよう、また、選考委員会が作られる場合でも、私立大学の状況がわかる方に委員になってもらいたい、という要望が出ている。

## 3. 次回会議の開催について

次回の長期計画企画拡大会議は、2001年(平成13年)11月7日(水) 15:30から、L-921で行うこととする。なお、次回会議においては、各検討専門委員会の進捗状況を各委員長から発表してもらうことを予定している。

以上